

次世紀に向けた開会式 政・官・財界人多数が出席

自動車工業振興会主催、第33回東京モーターショーの開会式が22日午前10時、千葉・幕張メッセの国際会議場2階コンベンションホールに総裁である寛仁親王妃両殿下をお迎えし、華やかに行われた。



会場には政・官・財界人を始め業界関係者約700人が出席、石川越夫専務理事の開会の辞、国旗掲揚のあと主催者を代表して辻義文会長から「今、私どもは新しい世紀を間近に控えて、社会との関わりの中でどう発展していくか、その将来の姿をしっかりと考えていくことが求められているのではないかと存じます。このような背景を踏まえまして、今回の第33回東京モーターショーのテーマは『未来発走。くるまが変わ

る。地球が変わる。』といたしました」と挨拶。次いで細田博之・通産省総括政務次官、中馬弘毅・運輸省総括政務次官、それに国際自動車工業連合会（OICA）会長のエミリオ ディ カミロ氏、沼田武・千葉県知事からそれぞれ祝辞が述べられた。

このあと奥田碩副会長の開会宣言に続いて寛仁親王妃信子殿下がテープにハサミを入れられると会場は拍手に包まれ10時35分閉会。両殿下は社長の案内で電気自動車にお乗りになり、1時間ほどで会場を一巡された。

なお、12時30分から国際会議場2階コンベンションホールで、寛仁親王妃信子殿下ご参加のもと祝賀レセプションが行われた。出席者は深谷隆司・通産大臣ほか約1,200人、乾杯の発声は駐日米国大使トーマス エス フォーリー閣下が行い、和やかに終了した。



握手握手、総理ニッコリ



小淵恵三首相が22日午後、現職の総理大臣として初めてモーターショー会場に訪れた。辻自工振会長、豊田章一郎顧問、石川専務理事の案内で、主要ブースを熱心に見てまわられた。

総理を一目見ようとする入場者が通路を埋め尽くし、カメラを向けたり、握手を求めたり。これには首相もニッコリ、この要求に応えていた。



ご高覧中、各ブースを熱心にご覧になっていたが、特にテーマ館に展示されている懐かしいくるまや電気自動車に興味を示されたご様子だった。

実用化されてきたEV 電気自動車展示の傾向

イベントホールに日本電動車両協会の展示コーナーがある。出品台数は約20台、すでに実用化されてきただけに見どころだろう。

用途はその多くが官公庁・自治体・法人等が中心だが、最近では限られた都市地区での「レンタカーシステム」としての需要も広がりを見せている。

また個人用として気軽に持てる超小型EVコミューターも実用化されており、「e-com」(トヨタ)「ハイパーミニ」(日産)「ICVSシティパル」(ホンダ)などがそれだ。

この中でも来年早々に発売されるハイパーミニは、自宅充電でわずか100円の電気料金で100キロ余も走るのも魅力。

このほか新開発の電動スクーターも参考出品されている。



人気のEV試乗コース

二輪車もハイブリッド化

二輪車展示の傾向

二輪車コーナーが北ホールに展示され賑わっている。ここには国産メーカーのホンダ・ヤマハ・スズキ・川崎重工などがスクーターから大型ツーリング、それにレトロ感覚のモデルまで、様々なプレゼンテーションモデルが展示されていて楽しめる。

環境時代を反映してか、ここでもエコゾーンが設けられ、電気とエンジンの利点を併せ持ったハイブリッドシステムを搭載したELEX(10インチ)(ホンダ)や「ハイブリッドコミューター」(ヤマハ)それにガスを燃料にした小型軽量のコンセプトモデル「X-8」(スズキ)などが注目されていた。



個人需要も期待できる超小型EV



大型バイクが目白押し(カワサキ)



多種多様なモデルが一堂に(スズキ)



ハイブリッドコミューターなどを展示(ヤマハ)

Topics(第1回) 両殿下をお出迎え

厳粛なうちにも華やかな東京モーターショーの開会式。その中で総裁寛仁親王妃両殿下を会場入口でお出迎えする女性18人。出品会員会社から選ばれた説明員たちで、お出迎えする時は右手を下、左手を上重ねて前に置き、30度の角度で礼をする。



慣れた動作だが、今日はチョット緊張気味。“でもキチンとします。プロですから”。

赤・白・グリーン・ブルーと各社マチマチのユニフォーム。色鮮やかなユニフォームが開会式の雰囲気や一段と盛り上げていた。

外国人記者の目(第1回) 日本の小型車素晴らしい ロバート・ピシュビルスキー(ポーランド男性) Robert Przybylski モトマガジン記者 Motomagazyn

販売部数12万5,000部のポーランドの自動車専門誌。東京モーターショーはフランクフルトショーに比べると規模は大きくないが、一日に必要な情報をいろいろ得られるように組織されていて大変素晴らしい。

印象的なのはハイブリッドカーなど高性能な小型車が多く出展されていること。注文をつけたい点ももっとブースでもインターネットでも英語での情報提供をしてほしいことぐらいかな。

プレスセンターは快適なうえ能率的であり、なによりクーリエサービス(資料の宅配便)が秀逸。日本に来たのは初めてだが、このプレスセンターといい、いろんな意味でサービスが整っているのが良い。欧州では朝食を頼むだけで30分もかかるからこれは大変素晴らしいことなんです。



21日のプレス来場者数 6,700人